

授業科目名	社会学基礎論		
科目番号	BB11011	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次	時間割	春 AB 火 5,6
担当教員	葛山 泰央		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>この授業では、社会の内部観察としての社会学的思考の成立と展開を、いくつかのテキスト(マルクス、デュルケム、ヴェーバー、ジンメルなど)に即して紹介することを目的とする。社会学はこれまで、「近代社会の自己観察」として成立し展開してきた。それは「社会秩序とは何か」という根本問題のもとで、社会の「階層的分化」から「機能的分化」への移行に見合う、数多くの命題を打ち立ててきた。しかし社会学は現在、その方法と対象を、次第に拡散させてゆく方向にある。現代の社会学が拡散してゆく事態は、現代社会そのものが拡散してゆく事態の、一つの効果に他ならない。近代の社会学は「社会の自己観察ないしは内部観察」として繰り広げられてきたのだが、現代の社会学は「社会そのものの拡散」や「内部観察そのものの動揺」(ルーマン)に向き合わなければならないのである。</p> <p>この授業では、社会学的思考の成立と展開を辿り直してゆくなかで、社会の内部観察そのものの困難や不可能性を浮かび上がらせつつ、それらの困難や不可能性が近代・現代の社会学を「解体」させたのちに、近代・現代社会を観察するためのいかなる思考が残存しているのかを、探究することにしたい。</p> <p>前半では、「社会的事象の探究」「19世紀と20世紀の社会学」「行為理論」「物象化論と存立構造論」という視角から、社会学的思考の成立と展開を主題化する。後半では、「構造主義」「知の考古学」「社会システム理論」「習俗の思考」「イメージの思考」という視角から、「来たるべき」社会学的思考の転回の可能性について考察する。</p>		
授業の進行予定	<ol style="list-style-type: none"> (1) イントロダクション (2) 社会的事象の探究 (3) 19世紀と20世紀の社会学 (4) 行為理論 (5) 物象化論と存立構造論 (6) 構造主義 (7) 知の考古学 (8) 社会システム理論 (9) 習俗の思考 (10) イメージの思考 		
単位取得要件	毎回の出席と小課題、中間・期末レポートを踏まえた総合評価		
授業外の予習復習方法	教科書や参考文献を手掛かりにしながら、授業の内容を十分に理解するよう努めること(授業によっては「復習小レポート」を課す場合もあるので注意すること)。		
教材等	教科書は見田宗介(著)『社会学入門』(岩波新書)ならびに佐藤俊樹(著)『社会学の方法』(ミネルヴァ書房)。参考文献は授業のなかで適宜紹介する。		
オフィスアワー	木曜 5 限		
学生への要望			

授業科目名	現代社会論		
科目番号	BB11021	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次	時間割	秋 AB 金 4,5
担当教員	五十嵐 泰正		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	グローバル化という現象が、いかにわれわれの現実の生活と社会認識を変えつつあるのか、そして多文化化が進む中で、従来の定住と単一文化を前提とした社会や制度をどのように再考しなければならないのかを検討し、個々の学生たちが、自分自身の人生設計や仕事に大きな影響を及ぼす事態として、これらの問題を的確に把握してゆくことを目指す。		
授業の進行予定	<p>グローバル化とは、さまざまな立場からの議論を呼び起こしながら、現代に生きる誰しをも否応なく巻き込んでゆく多面的なプロセスである。講義全体を通して、文化、労働、アイデンティティ、階層構造、ナショナリズムといった代表的な社会学的トピックを取りあげ、それらの領域におけるグローバル化の刻印を検討するとともに、一つの具体的な議論の導き手として、わたしたちの隣人として日本に在住するエスニック・マイノリティの状況に触れながら考察を深めていく。</p> <p>(1) 第 1 週 文化の流通とグローカリゼーション (2) 第 2~3 週 越境する労働 (3) 第 4 週 空間的に不均等なグローバル化の発現 (4) 第 5 週 再生産労働と移民 (5) 第 6 週 国際移動のグローバルネットワーク (6) 第 7~8 週 アイデンティティとダイバシティ (7) 第 9~10 週 国家の変貌と階級/人種関係の再編</p>		
単位取得要件	学期末のレポート (4000 字程度) による評価。授業内に小課題を課す場合がある。		
授業外の予習復習方法			
教材等	教科書は特に指定せず、配布するシラバスに沿って授業は進行するが、下記のものも含め、授業内で紹介する参考文献にできる限り触れてみるようにしてほしい。 1. 参考書:五十嵐泰正編著『労働再審 2 越境する労働と』大月書店、2010 年。		
オフィスアワー	金曜 6 限 (メールでアポイントメント推奨)		
学生への要望	住んでいる地域やアルバイト先、大学への行き帰りの中での外国人の姿に注意を払い、関連するニュース報道や新聞記事にも敏感になることを期待する。		

授業科目名	法学概論		
科目番号	BB20001	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 木 4,5
担当教員	前田 聡		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>本科目は、これから法学を学ぶ学生を主たる対象として、(1) 法の意義と特徴、(2) 法学という学問の概要、とりわけ「法解釈学」の「ものの見方・考え方」の特徴と、それを学ぶに最低限必要な基本的知識を概説する。本科目の目標は以下の 3 点である。(a) 法と法学の意義・特徴を理解し、説明できる、(b) 法解釈学の「ものの見方・考え方」の特徴を理解し、説明できる、(c) 上記 (a)(b) のために必要な言葉遣いに習熟する。</p>		
授業の進行予定	<p>以下は一応の予定であり、特に進行順序の点を中心に変更の可能性がある。詳細な授業計画は開講時(まで)に提示する。</p> <p>第 1 回 (1) 法とは何か (社会規範の一つとしての法の特徴、道徳など他の社会規範との違い、法の存在理由)、</p> <p>第 2 回 (2) 法学という学問 (法学とはどういう学問なのか、社会学、政治学、経済学との違い、法学の諸分野)、</p> <p>第 3 回 (3) 法の歴史、</p> <p>第 4 回 (4) 法の存在様式 (法源とは何か、成文法と不文法、慣習法、判例法)、</p> <p>第 5 回 (5) 法の担い手 (法律家、司法制度)、</p> <p>第 6 回 (6) 法の解釈 (法解釈の意義と必要性、法解釈の基本的な考え方と技術)、</p> <p>第 7 回 (7) 法文化 (世界にはどんな法が存在するか、日本の法にはどんな特徴があるのか)</p> <p>第 8 回 (8) 正義論 (法を支える価値原理を巡る議論の展開) 講義では、特に (5) と (6) に十分な時間を充てたいと考えている。</p>		
単位取得要件	<p>定期試験(筆記試験。電子機器以外の一切の資料の参照可)による(100%)。なお、質問を加点要素として考慮することがある(最大で 10% 程度)。</p>		
授業外の予習復習方法	<p>初回講義時に詳しく案内するが、(1) 予習事項は毎回指示する、(2) 復習については、講義ノートや資料等を熟読し、講義で取り扱われたテーマの議論の展開を自分で追体験し、自分の言葉として説明できるようにしてほしい。なお、本科目に限っては、予習よりも復習を重視していただきたい。</p>		
教材等	<p>教科書はおって指示する(掲示に注意)。なお、何らかの「六法」を準備すること(開講時に説明するので、その時点までは持参しなくともよい)。 参考文献は開講時をはじめとして随時紹介する。</p>		
オフィスアワー	<p>授業終了後おおむね 1~2 時間程度。場所については講義の際に指示する。</p>		
学生への要望	<p>・「民法」と呼ばれる法の分野については、「民法概論」が開設されています。法学専攻進学希望者はもちろんのこと、そうでない学生も、本科目と並行して履修することを強く希望します。</p> <p>・常に「法学ではどんな頭の使い方をするのだろうか」「法学の議論の仕方にはどんな『クセ』があるのか」というふうに、法学の「特徴」を、自分の普段のものの見方・考え方や、並行して勉強している諸学問のものの見方・考え方と比較しつつ学ぶと、楽しくなるかもしれません。</p>		

授業科目名	民法法概論		
科目番号	BB20021	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次	時間割	春 AB 水 1,2
担当教員	本澤 巳代子		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	<p>目標:市民生活に必要な民法全般に関する基礎知識を身に付けること 概要:日常生活の中で体験する具体的事例を挙げながら、民法や消費者保護に関する法律を分かりやすく解説するとともに、商法や民事訴訟法など民法全般についても解説する。</p>		
授業の進行予定	<p>教科書(後掲)の項目に従って、民法法の基本的な解説を行う。</p> <p>第1回 民法法と民法:公法と私法、民法法の意義と構造、民法と民法典、民法の歴史・基本原理、権利と義務、物権と債権など</p> <p>第2回 契約・法律行為:意思表示・契約・法律行為、公序良俗、意思表示の瑕疵(錯誤、詐欺・脅迫など)、無効と取消</p> <p>第3回 法律行為と代理:権利能力・意思能力・行為能力、制限能力者(未成年者、成年被後見人など)、代理制度の意義、無権代理、表見代理</p> <p>第4回 契約:契約の成立、契約の効果、双務契約、契約の履行(任意の履行と強制履行)、民事訴訟と強制履行、契約の不履行と損害賠償</p> <p>第5回 所有権:物権の種類(所有権、占有、用益物権、担保物権)、動産・不動産、所有権の取得(原始取得と取得時効、承継取得)、物権的請求権</p> <p>第6回 不法行為・事務管理・不当利得:不法行為の意義・機能、不法行為と保険、不法行為の要件、不法行為の種類、損害賠償、事務管理の意義、不当利得の意義</p> <p>第7回 債務の弁済:債務の担保(物的担保と人的担保)、債務の弁済、手形・小切手、銀行送金、クレジットカード・カード、プリペイド・カードなど</p> <p>第8回 団体:権利の主体(人と法人)、法人制度(社団法人、財団法人)、法人の活動、権利能力のない社団・財団、会社</p> <p>第9回 家族:夫婦関係(婚姻、婚姻届と戸籍、離婚の種類、離婚と戸籍)、親子関係(実子と養子、嫡出子と非嫡出子、人工生殖)、未成年者と父母の親権(親権の帰属・内容)</p> <p>第10回 扶養と相続:親族扶養の権利と義務、高齢者介護と扶養、相続の意義、相続人と相続分、遺言と遺留分 指定の試験期間の水曜1限目に期末テストを行う。</p>		
単位取得要件	事例問題による期末テスト(全て持ち込み可)を重視する(80%)。評価に当たっては出席状況も加味する(20%)。		
授業外の予習復習方法	法学を学ぼうと思っている学生は必ず六法を購入し、授業中はもちろん、事前事後に関係条文を確認すること。なお、自分なりの講義ノートを作成することも勉強の一つなので、自分なりに工夫をして講義ノートを作成して欲しい。これらの講義ノートは、教科書等と一緒に、期末テストの際に全て持ち込みを許可するので、自分自身のためにも講義ノートをこまめに作成するようにして欲しい。		
教材等	民法法に関する入門書であれば、指定した教科書以外の本を使用しても構わない。ただし、概論と言っても学習範囲が非常に広いので、必ず事前事後に教科書等を読む必要がある。 1. 野村豊弘『民法法入門第5版補訂版』有斐閣アルマ BASIC(本体 1800 円)		
オフィスアワー	事前にアポイントを取ること。ただし、講義の終了時に質問時間を設けるので、できる限りその時間を活用して欲しい。 水曜日 14 時~18 時 人社系棟 B304 motozawa.miyoko.fe at u.tsukuba.ac.jp		
学生への要望	法学を学ぼうと思う学生は、専門科目の民法科目(総則、物権、債権、親族、相続など)および商法関係科目や民事書証法を学ぶための入門科目として受講し、必ず関係条文を六法で確認する癖を身に付けて欲しい。その他の学生も、社会人になってから役立つ一般教養として身近な法律知識を学んで欲しい。		

授業科目名	政治学		
科目番号	BB31011	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次	時間割	秋 AB 火 2,3
担当教員	辻中 豊		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	政治学の入門的講義。政治的なものの概念, 政治の分析方法などを紹介し, 政治学の発展的な学習のための手掛かりを提供する。政治および政治学の全体像を把握し, 政治的思考を身につけることを目指す。		
授業の進行予定	(1) 政治とは, 政治学とは (2) 政治の仕組み (3) 有権者 (4) マスメディア (5) 議員と政党 (6) 官僚制 (7) 社会集団 (8) 政策過程とリーダーシップ (9) 政府体系 (10) 政治体制 (11) 政治制度 (12) 政治文化 (13) まとめ		
単位取得要件	中間試験, 期末レポート, 新聞切抜きの提出, 出席点		
授業外の予習復習方法	テキスト, レジユメを適宜活用すること。 また, 毎週, 講義内容に見合った新聞記事等の切り抜きを義務付ける。		
教材等	以下のテキストに準拠して進める。参考文献は適宜紹介する。 1. 辻中豊 『政治学入門』(放送大学教育振興会,2012 年予定) 2. 参考) 伊藤光利編 『ポリティカル・サイエンス事始め〔第3版〕』(有斐閣,2009 年)		
オフィスアワー	月曜・金曜各 17:00-19:00 共同研究棟 A 306 tsujinak at sakura.cc.tsukuba.ac.jp http://tsujinaka.net/ (久保) 他の日時を希望する場合は適宜メールにて予約すること。		
学生への要望	研究ノートをつけること。詳しくは初回の講義で解説する。		

授業科目名	政治思想		
科目番号	BB31021	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次	時間割	春 AB 火 2,3
担当教員	近藤 康史		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	現代の政治的・社会的変容を念頭に置き、身近に起こっている政治現象などを取り上げながら、政治思想・政治理論の現代的諸論点について考え、「政治とは何か」という問題にアプローチする。またその過程で、各人が、「自由」「平等」「公共性」「民主主義」といった政治的概念について自分なりに考えると同時に、それを生かした形で現代政治に対する視角を獲得することを目標とする。		
授業の進行予定	具体的な講義内容は以下の通り。進行状況によって、若干の変更がありうる。1. 現代政治の変容:福祉国家の揺らぎ、国民国家の揺らぎ、脱伝統社会 (第1週~第3週) 2. 政治思想の現代的展開:リバータリアン/コミュニタリアン、ラディカル・デモクラシー (第4週~第7週) 3. 政治的概念の変容:自由、平等、公共性、「政治的なるもの」(第8週~第10週)		
単位取得要件	中間レポート(4割)+学期末試験(6割)		
授業外の予習復習方法	前回の内容を復習した上で講義に臨むことが望ましい。参考文献は講義中に提示するので、より発展的な内容について知りたい学生は活用すること。		
教材等	教科書は特に指定しない。参考文献は講義中に提示する。		
オフィスアワー	火曜日 15:00~16:00 人文社会学系棟 B412		
学生への要望			

授業科目名	政治外交史		
科目番号	BB31031	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次	時間割	春 AB 金 3,4
担当教員	松岡 完		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	現代の国際政治で生じているさまざまな事件の歴史的背景を知り、現代世界の序曲となった冷戦時代を中心に国際政治の歩みを把握すること。		
授業の進行予定	(1) 序論/アメリカの世紀とは (2) 第一次世界大戦/第二次世界大戦 (3) 冷戦の開始/冷戦の激化と欧州の分断 (4) 中国革命/朝鮮戦争 (5) インドシナ戦争と日本/平和共存路線の模索 (6) 西欧の防衛と統合/中東の戦火 (7) 動揺する社会主義陣営/東西対立の再燃 (8) KK 時代と多極化世界/革命とミサイル (9) ヴェトナム戦争/デタント外交 (10) 激化する地域紛争/冷戦の終焉とその後/結論		
単位取得要件	学期末レポート		
授業外の予習復習方法	授業と並行してテキストを読み進めること。それぞれの興味関心にもとづいて、関連する書籍(テキストに記載の参考文献など)を読み、現代国際政治の歴史について考えること。		
教材等	1. 松岡 完 『20 世紀の国際政治』同文館、改訂増補版、2003 年、3400 円。		
オフィスアワー	金曜日 11 時 30 分~12 時 人文社会学系棟 A403 matsuoaka at social.tsukuba.ac.jp		
学生への要望	歴史は細切れで学んでも無意味。できるだけ授業全体の受講をつうじて、過去・現在・未来について考えるきっかけにして欲しい。		

授業科目名	経済学基礎論		
科目番号	BB41051	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次	時間割	秋 AB 木 4,5
担当教員	篠塚 友一		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	ミクロ経済学とマクロ経済学の入門的な内容を講義する。		
授業の進行予定	この講義では最初にミクロ経済学、その後にマクロ経済学を講義します。ミクロ経済学では、需要と供給、消費の理論、コストの概念、生産の理論、完全競争市場といったトピックを講義する。マクロ経済学では、国民所得、経済成長、失業、貨幣とインフレーション、景気変動といったトピックを講義する。 第1回経済学一般について紹介します。その後、ミクロ経済学の視点から経済学的な考え方につながるいくつかの重要な概念の説明をします。		
単位取得要件	2回の試験の成績にもとづく。		
授業外の前習復習方法	教科書をよく読み練習問題を解く努力を怠らないこと。		
教材等	N/グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学マクロ編』東洋経済新聞社		
オフィスアワー			
学生への要望			

授業科目名	現代経済史		
科目番号	BB41061	単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次	時間割	春 AB 金 5,6
担当教員	高橋 秀直		
授業形態	講義		
授業の目標と概要	近代経済成長と経済のグローバル化を、歴史的、経済的に検討する。		
授業の進行予定	講義の進行方法などの指示を伝えるので、初回には必ず参加すること。		
単位取得要件	中間および期末テストで評価する。		
授業外の予習復習方法			
教材等	初回時に指示する。		
オフィスアワー			
学生への要望	経済学だけでなく、様々な社会科学科目を聴講することを強く勧める。		